

じゃあ、第9課の文法の説明を簡単にします。これはリハーサルのレコーディングなので、間違えるところがあるかもしれませんが、よろしくお願いします。まず最初の「～しても、～しなくても」なんですけれども、ここだからnegativeのformなんですけど、ちょっとformから練習します。

意味なんですけど、例えば、「この漢字の書き方は覚えても覚えなくてもいいです」、「it's ok whether you remember or not」。それから、「この映画は子供でも子供じゃなくても楽しめます」、「whether you are a child or not, you can enjoy it」。こんな感じです。

次、形容詞の時、これは「高くても高くなくても」「良くて悪くなくても」。それから形容動詞の時は「じゃなくても」。それから名詞の時も「じゃなくても」、「学生でも学生じゃなくても」。動詞の時には「ないのなくても」、「書いても書かなくても」。するの時には、リピートをしてもいいんですけども、こんな風にしなくても大丈夫です。「結婚してもしなくても」というので大丈夫です。

意味なんですけれども、意味はwhether you do this or whether it is X or not。次の文法まこれは後でクラスで練習します。前者はそれから後者は、これ。

前者、それから後者と言うんですけども、the former, the latterという英語と全く同じなんですけれども、とてもformalな言い方です。例えば、日本の代表的な伝統芸能に能と狂言がある。前者は、だからこれは能です。それから後者は、これは狂言です。悲劇だというものです。

次、「～と言った」というものなんですけれども、これはですね、ここにちょっと見ましょう。こんな風にリスティングするのも大丈夫です。例えば、「この大学には韓国、中国、台湾といったアジアの国」、この「アジアの国々」というのの何かexampleを出したものです。それから、どの国の言葉でも丁寧になればなるほど分が長くなるといった傾向がある。

それは何か、これがsampleなんですけれども、あの大抵もこの時はnoun、これこのnounやnoun、それからnounとかnoun、こんな感じで大丈夫です。ここにですね、何かexampleを出すというものです。例えば、日本語についてです、日本語には、そうですね。

敬語、敬語、やそれから謙譲（けんじょう）語といった難しい文法がある。ちょっとおかしかったのかなも、例えば敬語やそれからオノマトペでもいいですけどもといった難しい傾向がある、難しい文法があるとかですね。それからMITの学生は、そうですね、コンピューターサイエンスとかエンジニアリングといった科目を先行するよくあのここにですね出てくるのがだからnounやnounといったとかnounとかnounと言った、こんな使い方をします。

ちょっと例文を次ですが、一方という使い方なんですけれども、あのもちろん文章の最初に来る時、この時にはon the other handなんですけれども、～一方というこの文の中に入ってる時、この時には英語のwhile的な意味があると思います。例えば、そうですね、これ

を見てみましょう、3番です。「日本に留学したいと思う一方、while I'd like to study abroad in Japan、外国に住むことに不安もある」、「I worry about living abroad」。

それから何しましょうか、これも5番をやってみましょうか。「勉強が忙しい一方で学費のためにアルバイトもしなければならぬから毎日本当に大変だ」。だからこの時も英語のwhileですよね、while I've be busy with studyingでも学費のためにアルバイトもしなければいけないから大変だ。これは今全部あの文法あの文の中のものでしたけど、文の初めに来る時、これは本当に英語のon the other handと同じ意味です。

はい、次ですが、「あるいは」もうこれは何ですか、nounとnounの間、名詞と名詞の間に来た時には「either or」です。あるいは、文章の中に入ってくる時も大丈夫です。1番例えば、「将来はヨーロッパあるいはアジアで仕事ができたと思っています」。もっと簡単なinformalな言い方としては「ヨーロッパかアジア」と同じ意味です。この大学では日本語あるいは英語で卒業論文を書くことになっています。それから文章も大丈夫です。「就職しようかあるいは大学院に進んで勉強続けようか今迷っている」。ちょっとここで気をつけてください、文章の時にはこの「か」があります。そう、whether I should do this orというのでメールを出すかあるいは電話をするかどちらでも、ここで「か」がないとだめです。メールを出すあるいは電話をすどちらでもいいがおかしいです。かをこのかを忘れないでください。ああそれからもちろんここはplain formです、いいですか、お願いします。

はい、それから「なかなかnegative」なんですけれども、「なかなかnegative」ってというのは意味としてはnot easily、not readilyあるいはdifficult to doなんですから、これはあのnegative polarityというですか、いつもnegativeと一緒に来ます。「なかなかない」、「だからバスがなかなか来ない」。それから「漢字がなかなか覚えられません」。ここにもあの英語で書いてあるんですけれども、大抵ですね、何かそのsomething desirable does not happen easilyというシチュエーションでよく使います。例えば、「コンサートがなかなか始まらない」、「練習をしているんですがなかなか上手に弾けない」。

何かdesirableなものがdoesn't happen so easilyというものです。例えば、電車がなかなか、単語がなかなか。これはクラスで勉強します。

それから、「つまり」なんです、「つまり」ってのはもう本当に英語の「that is」や「in other words」「mainly」こんなものです。例えば、「来週、母の弟、つまり叔父」これはparaphraseになるんですけれども。それから、「両親は20年前、つまり私の生まれた年」という使い方です。もちろん、センテンスでも大丈夫です。

例えば、「受験戦争」を勉強しますけれども、「受験戦争というのは、つまり、いい学校に入るために、戦争のように勉強で競争することです。」これはparaphraseです。

例えば、日本の伝統芸能を勉強しましたけど、「日本の伝統芸能の狂言というのは、つまり、日本の昔のコメディなんです。」こんな使い方もします。

はい、これはクラスで勉強します。「そこで」、これは「therefore」で、英語の「therefore」文のいつも初めに使ってください、1つだけ例文を見てみましょう。

1番もやりましょうか。例えば、「学生たちは先生とだけでなく一般の日本人とも日本語で話したいはず。そこで、日本人の留学生のグループとパーティーをすることにしました。」このcontextとでは、「だから」と同じような意味です。

はい、これで文法の1から8まで、パート1のところで終わります。